学校番号	T3005

平成31年度　国語科

教科	国語	科目	現代文A	単位数	2単位	年次	3年次
使用教科書	高等学校　改訂版　新編現代文A　（第一学習社）						
副教材等	無						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・休まずに毎日出席し、授業時間中は集中して授業に取り組むこと
・日々の課題は原則としてその日のうちに提出すること。間に合わない場合でも考査前には提出すること
・文章を読み解き、その中にあるメッセージを理解するとともに、自分の考えを深める授業である
・定期考査ごとに学習範囲を告知するので、自分なりに計画を立てて復習すること
・必要に応じて独自のプリント教材や視聴覚教材を使用する

2　学習の到達目標

・小説・評論を読む能力を高める
・感想を述べるなかで、表現力や話し合う力をつける
・国語を適切に表現し、的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める

3　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：読む能力	c：知識・理解	d：	e：
観点の趣旨	文章を読む楽しさを味わい、読書に親しむとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする	目的に応じてまとまりのある文章を読み解き、自分の考えを深め、発展させている	言語文化の理解を深め、より深い知識を身につけている		
評価方法	出席状況 授業態度 音読 記述の確認 （感想文） （意見文） グループワーク	定期考査 記述の確認 （ワークシート） （感想文） （意見文） 音読	定期考査 記述の確認 （ワークシート）		

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

月	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c		
4 5	考えに触れる	教材： 「数え方で磨く日本語」 「コミュニケーションの文化」	○	○		a：筆者の考えを自分自身のものとして消化しようとし、深めようとしている b：「言葉」「コミュニケーション」に対する筆者の考えを正しく理解したうえで、自分自身に置き換えて考え、表現することができる	a：出席状況、授業態度 b：記述の確認（感想文） 定期考査
6	文学史	教材： 文学史プリント			○	c：文学者たちの人生、特徴を辿り、近代以降の文学史、言語文化を理解している	c：定期考査 記述の確認（ワークシート）
7	主張を読み取る	教材： 「永訣の朝」	○	○		a：詩に込められたメッセージを考えようとする b：作品で使用されている語句や言い回しを理解する	a：出席状況、授業態度 音読 b：記述の確認（ワークシート） 音読
9 10 11 12	名作を味わう	教材： 「山月記」	○	○		a：学習する教材はなぜ名作と呼ばれるのかを考えようとし、それを表現しようとする b：作品の内容を理解すると共に、そのテーマを推測し、自分の意見を述べることができる b：「名作」と呼ばれる作品は、なぜそう呼ばれるのかを考え、表現することができる b：特徴的な表現に注目して、文章の中での役割を正しく読み取ることができる	a：出席状況、授業態度 記述の確認 （感想文）（意見文） b：記述の確認 （ワークシート） （感想文）（意見文） 定期考査
1 2 3	現代社会を考える	教材： 「大量生産の眩暈」	○	○	○	a：現代を生きる自分自身のこととして考えようとし、自分なりに課題を設定しようとする b：筆者の主張を正しく読み取ることができる b：自分自身のこととして考え、自分なりの課題を設定することができる	a：出席状況、授業態度 グループワーク b：記述の確認 （ワークシート）（感想文） 定期考査 c：記述の確認（ワークシート） 定期考査

※表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：読む能力
c：知識・理解

※年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）ですべての観点について評価することになるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている